

## 国立劇場おきなわ「第3回新作組踊戯曲大賞」の入賞作品の決定について

国立劇場おきなわでは、沖縄の伝統芸能の保存振興を図ることを目的として、組踊をはじめ、琉球舞踊、三線音楽及び沖縄芝居の上演、組踊傳承者の養成等、諸事業を実施してまいりました。皆様方に支えられ、令和6年1月には開場20周年を迎えます。この「新作組踊戯曲大賞」の公募事業は、未来へとつながる新たな作品の創造を目指して、組踊上演300年記念の年にあたる令和元年度からスタートいたしました。

第3回目となる今回は、7作品の応募があり、「企画（発想・意図）」、「せりふ表現」、「音曲と歌詞」、「舞台にのせた場合を想定して」の4つの項目を指標に厳正に審査した結果、下記作品の入賞を決定いたしました。

本年度は、奨励賞2作品、佳作1作品が選出され、大賞は該当なしとなりました。総体的に個性豊かで作者の意欲あふれる作品が多く、いずれも新作組踊戯曲として大きな可能性を秘めた作品でした。入賞を逸した4作品を含めさらに練り上げ練り直しを重ねて、作品の完成度を高めていくことが期待されます。

当劇場では、さらなる沖縄伝統芸能の発展を目指し、この制度の一層の充実を図っていく所存であります。今後とも皆様のご理解とご協力を賜りますよう心よりお願い申し上げます。

### 記

#### 奨励賞 おおしろたかゆき 大城貴幸作品「恋染の手巾（くいずみぬていさじ）」

琉球王国の統治から薩摩侵攻で翻弄される沖永良部島を背景に、王府役人と島の娘の恋を軸にして展開する発想は秀逸といえる。男女の愛、親孝行、争いと、普遍的なテーマを丁寧に描いている。特に後半、ドラマの盛り上がりで沖永良部民謡の哀愁を帯びた曲調とが相まって、歯切れよい作品となっている。沖永良部島の音曲を選定した点は新鮮さがあり、組踊音楽の様式である琉球古典音楽を絡めつつ、島の雰囲気表現する工夫が感じられる。

一方、肝腎な主題が曖昧なため、戦争の悲惨さや平和の尊さを訴える力が弱くなっている。各人物のセリフは基本的な組踊の韻を踏んだものになっており、組踊の詞章として違和感なく唱えられているが、琉球語の表現としては十分とは言えないところが散見される。セリフと表現をさらに深めることで、より優れた作品となる可能性を秘めている。

#### 奨励賞 すずき こうた 鈴木耕太作品「玉掛けの糸（たまかきぬいと）」

蜘蛛と蝶という対立（天敵）関係にある存在を擬人化した恋物語である。蜘蛛に生まれた哀しい性と、愛の歓び、身分（種）を越えた愛、容姿への差別。現代人が抱える問題をメタファーで表現しているのは秀逸といえる。蜘蛛の巣と雨露の玉を素材にして「玉掛け」とした点も優れている。音曲では、選曲・作詞いずれの面でも作者の力量の高さを感じさせる。演出的にも面白味のある作品と思われる。

琉球古典語が用いられているところは評価できるが、その詞章がほかの作品からの転用となっており、詞章そのものに既視感がつきまとう。今一度細部をチェックし、隙のない表現にする必要がある。人間界と異なるファンタジックな世界を、組踊の表現方法、演出手法を軸にしながらどのように舞台上で表現するか、期待の持てる作品である。

## 佳作 いらはけんや 伊良波賢弥作品「笠末若茶良（がさすいわかぢやら）」

琉球の古い時代の久米島を舞台にした物語の発想は、これまでにない新鮮さがありユニークな作品である。人物名や地名が琉球王国時代のローカルな「独自性」を感じさせる。琉球古典語の使い方やセリフは唱えの韻を十分に考慮されていて、人物表現も組踊の唱えを熟知したものになっている。組踊音楽の様式を踏まえた適切な選曲と歌詞が使用されており、女声、男声と役柄、場面に合わせて使い分けている点で新しい工夫がみられる。最後に古典音楽で一番の悲嘆の曲が使われ、物語の展開を象徴する主題が感じられる。

一方、古典作品のセリフをそのまま思い起こさせるようなセリフ使い、歴史的事実や民俗の前提がゆらぐような場面展開があり、構成的な弱さにつながるようにもみられる。オリジナルの表現方法を工夫し、構成的な面を練り上げると大きな期待の持てる作品である。

### 〔備考〕

※受賞作品の作者には、賞状と賞金が贈られます。（大賞20万円、奨励賞10万円、佳作5万円）

### 〔参考〕

※審査選考の観点

「企画（発想・意図）」、「せりふ表現」、「音曲と歌詞」、「舞台にのせた場合を想定して」

※「第3回新作組踊戯曲大賞」選考審査委員

眞境名 正憲【重要無形文化財「組踊」保持者（総合認定）、組踊実演家】

波照間 永吉【名桜大学大学院国際文化研究科特任教授、沖縄県立芸術大学名誉教授】

比嘉 康春【重要無形文化財「組踊」保持者（総合認定）、音楽家】

富田 めぐみ【琉球芸能大使館代表、演出家】

嘉数 道彦【沖縄県立芸術大学准教授、組踊実演家】